

# 東朽網

学力特集号 平成30年10月25日発行(文責)校長 井津 京香

## 学校教育目標

徳・知・体の調和のとれた  
人間性豊かな実践力のある  
子どもの育成

—こんな子どもたちに育てたい—  
自分が好き・友達が好き・先生が好き・学校が好き  
○ やさしく、仲良く助け合う【いじめ0】  
(徳)  
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子ども  
○ かしこく(知)  
進んで学び、よく聞き、深く考え、表現できる子ども  
○ たくましく(体)  
体力づくりに励み、健康でたくましい子ども

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

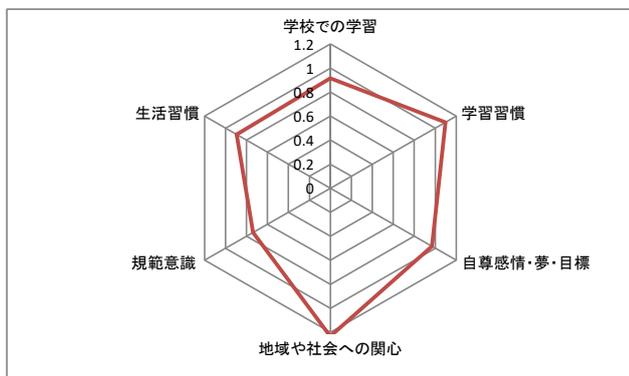
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全国平均をやや下回ったが、登場人物の心情について情景描写をもとに捉える問題や、主語と述語の関係に注意して書き直す問題などは、全国平均を上回っている。漢字を文の中で正しく使う書き取り問題では、5問中4問が全国平均を下回っているため、新出漢字の練習と共に、日ごろから習った漢字を使って書く習慣を身に付ける必要がある。	下回っている
国語B	・「書くこと」の領域で、目的や意図に応じて中心を明確にして解く問題は全国平均を上回っている。しかし、同じ「書くこと」の領域でも、記述問題での正答率が低く、無回答率が高い傾向が見られる。自分の考えをまとめ、文章に表す問題にも粘り強く取り組めるよう、授業の中でも、書く活動に取り組んでいく必要がある。	下回っている
算数A	・計算の技能については、チャレンジタイムなどの取組の成果が表れている。数と計算、数量関係での知識・理解を問う問題では、正答率が全国平均を上回っている。四則計算の意味理解や数直線を使った数量関係の表し方、図形の領域について課題が見られる。授業の中で線分図や数直線等を使って、意味理解を重点的に指導していく必要がある。	下回っている
算数B	・全国平均を下回っており、特に数量関係を考察する記述問題において、正答率が低かった。記述問題での無回答率が高いので、応用問題に対しても粘り強く取り組むことができるよう、指導していく必要がある。	下回っている
理科	・正答率は全国平均を下回ったが、理科に対する意欲や関心は大きく上回っている。 ・A区分「物質」領域における観察・実験の技能、科学的な思考・表現を問う問題は全国平均を上回っている。高学年で専科指導を行い、問題解決学習に取り組んでいる成果が見られる。	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家で、自分で計画を立てて勉強をしている割合が全国平均を上回っており、自主学習の習慣が身につけてきているといえる。</li> <li>・地域の行事への参加や社会への関心の割合は、全国平均を大きく上回っており、地域との関わりが深いことがうかがえる。</li> <li>・「自分にはよいところがある。」「人の役に立つ人間になりたい。」という割合は、全国平均を上回っている。各学級での取組や行事への取組の成果が表れ、児童の自尊感情が高まってきているのではないかと考えられる。</li> <li>・生活習慣については、5年生のときよりも就寝時間が遅くなっている児童が増えている。ゲーム、テレビ、スマホ等の接触時間が増えていることが関係していると考えられる。</li> </ul>

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・毎時間の授業の中で、ペアやグループ、全体での話し合い活動を行い、表現力を高めるとともに聞く力の育成を行う。自分の考えを明確にもち、話し合いに参加できるよう、書く活動を取り入れ、書く力の向上を目指す。
- ・チャレンジタイム(補充学習)では、多層指導モデルMIMや学力サポートシステム等を活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
- ・算数科においては、全学年で課題となった単元で少人数指導を行い、個に応じた指導をする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「携帯・スマホ電源10時OFF」の取組を学校だより等で児童・保護者へ再度伝え、2時間以上スマホやゲームに接触している児童の割合を減少させるため、各家庭でのルールづくりに取り組むように促す。
- ・「家庭学習のススメ」や「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用して、家庭と連携しながら、家庭学習の定着を図る。